

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年3月16日
【四半期会計期間】	第19期第2四半期（自平成23年11月1日至平成24年1月31日）
【会社名】	シーシーエス株式会社
【英訳名】	C C S Inc.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 各務 嘉郎
【本店の所在の場所】	京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
【電話番号】	075(415)8280
【事務連絡者氏名】	経理財務グループマネージャー 梶原 慶枝
【最寄りの連絡場所】	京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
【電話番号】	075(415)8280
【事務連絡者氏名】	経理財務グループマネージャー 梶原 慶枝
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期連結 累計期間	第19期 第2四半期連結 累計期間	第18期
会計期間	自平成22年 8月1日 至平成23年 1月31日	自平成23年 8月1日 至平成24年 1月31日	自平成22年 8月1日 至平成23年 7月31日
売上高(千円)	2,608,197	2,500,691	5,314,233
経常利益又は経常損失() (千円)	101,895	78,599	179,005
四半期(当期)純利益又は四半期純 損失()(千円)	49,318	104,105	89,200
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	42,056	140,574	74,482
純資産額(千円)	1,064,654	1,915,374	2,097,268
総資産額(千円)	5,091,372	5,521,010	6,179,555
1株当たり四半期(当期)純利益金 額又は1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	2,391.15	4,040.88	4,312.42
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	2,389.01	-	4,306.57
自己資本比率(%)	20.91	34.69	33.94
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	189,174	51,099	240,859
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	28,258	63,743	71,534
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	139,087	414,622	846,629
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(千円)	730,661	1,169,324	1,722,051

回次	第18期 第2四半期連結 会計期間	第19期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 11月1日 至平成23年 1月31日	自平成23年 11月1日 至平成24年 1月31日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	1,259.05	1,752.25

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第19期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

4. 第18期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。また、以下の見出しに付された項目番号は、前事業年度の有価証券報告書における「第一部 企業情報 第2 事業の状況 4 事業等のリスク」の項目番号に対応したものです。

(1) 事業の廃止および子会社の解散方針について

連結子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーは、創業以来継続して営業損失を計上してきた結果、債務超過の状態となっております。早期の解消を図るために、当社は当社を割当先とする第三社割当増資をデット・エクイティ・スワップの方法で平成23年5月に引き受けました。また、早期の事業の黒字化を果たすべく、「ミニベジプラント」の拡販に努め、平成23年10月には福井工場においてベビーリーフの受託生産を開始し、収益の改善に努めました。

しかしながら、計画どおりに進捗が得られなかったため、当社の平成24年3月13日開催の取締役会において、植物育成プラント事業を廃止し、併せて同社を解散する方針を決議しました。

子会社の事業廃止および清算に係る詳細は未定であるため、本決定に係る連結業績への影響は未定であります。しかしながら、事業廃止および清算の過程で不要資産の売却等を計画しており、売却価格によりましては、特別損失発生の可能性があります。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復旧・復興を受け経済活動は緩やかに持ち直しつつあります。

一方で、欧州の債務危機を背景とした海外経済の下振れ懸念、為替や株価の変動、タイの洪水による企業の生産活動への影響等、先行きに対する不透明感が強まっております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、電子・半導体業界や自動車関連業界の一部においては設備投資の持ち直しにより引き続き堅調に推移しております。

当社グループでは、上記のような市場環境に対応して、グループを挙げて「生産性倍増」に取り組んでおり、社員一人一人の行動計画から見直すことで効率的な事業運営を実現し、計画的な製品開発の実行や市場投入およびコスト削減を図っております。

なお、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」から前第1四半期連結累計期間末に撤退したため、前年同期比較での売上高及び営業損失は減少しております。

また、当社の平成24年3月13日開催の取締役会において、植物育成プラント事業を廃止し、併せて子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーを解散する方針を決議しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,500百万円（前年同期比4.1%減）、営業損失は51百万円（前年同期は営業利益117百万円）、経常損失は78百万円（前年同期は経常利益101百万円）、四半期純損失は104百万円（前年同期は四半期純利益49百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

L E D照明事業

(a) 工業用照明分野

工業用照明分野では、国内におきまして、円高や景気の先行き不安の影響などから、顧客の設備投資は抑制傾向にあったものの、景気による変動を受けにくい三品業界（食品・薬品・化粧品業界）向けを中心に売上は堅調に推移しました。また、フィルムやガラス等、シート状・平板状などの検査に使用されるラインセンサ用L E D照明において、これまでの営業活動が実り、受注は好調に推移しました。

海外におきましては、欧州では、欧州経済の後退や急激なユーロ安の進行により売上高は前年同期に比べ減少しました。

北米では、ドル安の影響を受けたものの主要顧客への関係強化および営業強化が実を結び、売上は好調に推移しました。

アジアでは、タイにおいて発生した大規模な洪水による企業の生産活動への影響を受けたものの、中国市場において当社製品の品質の高さが評価され、総じて売上は堅調に推移しました。

(b) 新規事業分野（民生・商業分野、アグリバイオ分野、メディカル分野）

民生・商業分野では、商業施設・美術館・博物館向け照明等、“自然光LED”を搭載した製品ラインナップの拡充に努めました。

平成23年10月には、ステージ・スタジオ照明市場をターゲットに“自然光LED”を活用した照明機器の開発および販売を目的とした事業提携をウシオライティング株式会社と締結しました。同社とは平成23年8月に、ホテルやホールのパンケット・ウェディング会場向けLEDスポットライト「Cool Spot LED」の共同開発および販売を開始する等、“自然光LED”の特長を活かした製品開発、市場投入を図り、“自然光LED”の普及拡大に注力しております。

メディカル分野では、主力事業である工業用照明分野で培ってきたLED技術を応用し、医療用LED照明の製品の開発を完了しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,465百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は43百万円（前年同期比85.2%減）となりました。

植物育成プラント事業

レストラン・商業施設で容易に完全無農薬の野菜栽培ができる「ミニベジプラント」を標準化し、拡販に努めました。また、平成23年10月には、福井工場においてベビーリーフの受託生産を開始し、収益の改善に努めました。

しかしながら、計画どおりの進捗を得られなかったため、当社の平成24年3月13日開催の取締役会において、植物育成プラント事業を廃止し、併せて子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーを解散する方針を決議しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は35百万円（前年同期比6.7%増）、営業損失は95百万円（前年同期は営業損失104百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末において、総資産は5,521百万円（前連結会計年度末6,179百万円）となりました。これは主に、たな卸資産70百万円の増加等があったものの、現金及び預金552百万円、受取手形及び売掛金140百万円の減少等によるものであります。

負債は、3,605百万円（前連結会計年度末4,082百万円）となりました。これは主に、長期借入金657百万円、1年内返済予定の長期借入金82百万円の増加等があったものの、短期借入金1,105百万円、未払金65百万円の減少等によるものであります。

純資産は、1,915百万円（前連結会計年度末2,097百万円）となりました。これは主に、当第2四半期純損失104百万円、配当金の支払41百万円により利益剰余金145百万円の減少等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ552百万円減少し、1,169百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は51百万円(前年同期は189百万円の獲得)となりました。これらの主な要因は、減価償却費67百万円、売上債権の減少138百万円等があったものの、税金等調整前四半期純損失78百万円、たな卸資産の増加75百万円、未払金の減少61百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は63百万円(前年同期比35百万円増)となりました。これらの主な要因は、有形固定資産の取得による支出48百万円、無形固定資産の取得による支出14百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は414百万円(前年同期比275百万円増)となりました。これらの主な要因は、長期借入金による収入1,100百万円があったものの、短期借入金の減少1,105百万円、長期借入金の返済による支出360百万円等があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、315百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000
A種優先株式	5,103
計	65,103

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年3月16日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,660	20,660	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株 制度を採用し ておりません。
A種優先株式 (当該優先株式 は行使価額修正 条項付新株予約 権付社債券等で あります。)	5,103	5,103	非上場	(注)1~3
計	25,763	25,763	-	-

(注)1. 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の特質は以下のとおりであります。

- (1) A種優先株式には、当社普通株式を対価とする取得請求権が付与されております。A種優先株式の取得請求権の対価として交付される普通株式の数は、一定の期間における当社の株価を基準として決定され、または修正されることがあり、当社の株価の下落により、当該取得請求権の対価として交付される当社普通株式の数は増加する場合があります。
- (2) A種優先株式の取得請求権の対価として交付される普通株式数の数は、取得請求が行われたA種優先株式に係る払込金額を以下の基準額で除して算出されます。(1株に満たない端数がある場合は切り捨てます。)また、基準額は、下記のとおり、平成23年10月31日(修正基準日)において、修正基準時価が取得価額を下回った場合に修正されます。
修正基準時価は、修正基準日(同日を含む。)までの直近の30連続取引日の大阪証券取引所JASDAQ市場における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値(円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)又は156,300円のいずれか高い金額であります。
なお、平成23年10月31日(修正基準日)において、修正基準時価が取得価額を下回ったことから、修正後取得価額は156,300円となっております。
- (3) 取得価額の下限及び取得請求権の行使により交付されることとなる普通株式の株式数の上限
取得価額の下限 156,300円
取得請求権の行使により交付されることとなる普通株式の株式数の上限
6,397株(平成24年1月31日現在におけるA種優先株式の発行済株式総数5,103株に基づき算定。同日の普通株式の発行済株式総数の31%)

(4) 提出会社の決定による優先株式の全部の取得を可能とする旨の条項の有無

A種優先株式には、取得請求期間中に取得請求のなかったA種優先株式の全部を、取得請求期間の末日の翌日（強制取得日）をもって普通株式の交付と引換えにA種優先株式の全部を取得することができる条項（強制転換条項）があります。また、平成24年7月29日以降、ある90連続取引日の大阪証券取引所JASDAQ市場における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値（終値がない日数は除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。）が、A種優先株式の取得価額の2.2倍を超えた場合、いつでも、所定の手続きをもってA種優先株式の全部又は一部を取得することができる条項（強制償還条項）があります。

なお、詳細は、下記の3.(6)又は3.(8)をご参照下さい。

2. 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に関する事項は以下のとおりであります。

(1) 権利の行使に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

該当事項はありません。

(2) 当社の株券の売買に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

当社は、割当先に対し、割当先が保有する本優先株式（又は転換後の普通株式）を、当社が指定する第三者に譲渡するよう申し入れることができ、割当先は、当該申し入れが、所定の金額以上であること、かつ、所定の割合以内であること、また、その他条件についての合理的に満足する内容であることを条件に、申し入れに対して真摯に検討しなければならない。

また、割当先は、割当先が保有する本優先株式（又は転換後の普通株式）を譲渡する際は、当社に通知して協議し、所定の場合は当社が代案提示する譲渡先に譲渡しなければならない。

(3) 当社の株券の貸借に関する事項についての所有者と会社の特別利害関係者等との間の取決めの内容

該当事項はありません。

(4) その他投資者の保護を図るため必要な事項

単元株式数

単元株制度を採用しておりません。

議決権の有無及び内容の差異並びに理由

当社は、A種優先株式とは異なる種類の株式である普通株式を発行しています。普通株式は、株主としての権利内容に制限のない株式ですが、A種優先株式は、株主総会において議決権を有しません。これは、A種優先株式について優先権を持つ代わりに議決権がない内容としたものであります。

種類株主総会の決議

当社は、会社法第322条第1項の規定による種類株主総会の決議を要しない旨を定款で定めておりません。

3. A種優先株式の内容は次のとおりであります。

(1) 剰余金の配当

当社は、平成23年8月1日に開始する事業年度以降の各事業年度において、普通株式を有する株主（以下「普通株主」という。）又は普通株式の登録株式質権者（以下「普通登録株式質権者」という。）に対して剰余金の配当を行うときは、当該剰余金の配当に係る基準日の最終の株主名簿に記載又は記録されたA種優先株式を有する株主（以下「A種優先株主」という。）又はA種優先株式の登録株式質権者（以下「A種優先登録株式質権者」という。）に対し、A種優先株式1株につき、普通株式1株当たりの配当額に基準日交付株式数（以下に定義する。）を乗じた額（計算の結果1円未満の端数が生じた場合には、当該端数は切り捨てる。）の剰余金の配当を、普通株主又は普通登録株式質権者に対する剰余金の配当と同順位にて行う。なお、当社は、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対して、平成23年7月31日に終了する事業年度に係る剰余金の配当を行わない。

「基準日交付株式数」とは、上記剰余金の配当に係る基準日において下記(4)に定める株式を対価とする取得請求を行なった場合にA種優先株式1株の取得と引換えにA種優先株主に交付される普通株式の数をいう。

(2) 残余財産の分配

当社は、残余財産を分配するときは、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき196,000円を支払う。A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対しては、上記のほか残余財産の分配を行わない。

(3) 議決権

A種優先株主は、株主総会において議決権を有しない。

(4) 普通株式を対価とする取得請求権

A種優先株主は、平成24年7月29日以降平成29年7月28日(同日を含む。)までの間(以下「取得請求期間」という。)いつでも、法令の定める範囲内において、当会社に対して、次に定める数の普通株式(以下「請求対象普通株式」という。)の交付と引換えに、その有するA種優先株式の全部又は一部を取得することを請求することができるものとし、当会社は、当該請求に係るA種優先株式を取得するのと引換えに、請求対象普通株式を、当該A種優先株主に対して交付するものとする。但し、取得請求の日において、請求対象普通株式数が、当会社の発行可能普通株式総数から発行済普通株式数を控除して得られた株式数を上回る場合には、当会社は、当該株式数の範囲内において、A種優先株主に対して交付する普通株式の数が最大となるように、取得請求されたA種優先株式の数に応じた比例按分その他当会社の取締役会が決定する方法により、当該取得請求に係るA種優先株式の一部を取得する。なお、かかる方法に従い取得されなかったA種優先株式については、取得請求がなされなかったものとみなす。

A種優先株式の取得と引換えに交付する普通株式の数

A種優先株式の取得と引換えに交付する普通株式の数は、取得請求に係るA種優先株式の数に196,000円を乗じて得られる額を、下記 乃至 で定める取得価額で除して得られる数(以下「転換時交付株式数」という。)とする。なお、A種優先株式の取得と引換えに交付する普通株式の数に1株に満たない端数があるときは、会社法第167条第3項に従い、これを切り捨てた上同項に定める金銭(以下「転換時交付金額」という。)をA種優先株式の取得を請求したA種優先株主に交付するものとする。

当初取得価額

取得価額は、当初、196,000円(以下「当初取得価額」という。)とする。

取得価額の修正

平成23年10月31日(以下「修正基準日」という。)において、修正基準時価(以下に定義される。)が当該修正基準日において有効な取得価額を下回った場合、取得価額は、修正基準日の翌日以降、修正基準時価に相当する額に修正される(以下、かかる修正後の取得価額を「修正後取得価額」という。)。但し、修正後取得価額が156,300円(但し、下記 に規定する事由が生じた場合、下記 に準じて調整されるものとし、以下「下限取得価額」という。)を下回る場合には、修正後取得価額は下限取得価額とする。

「修正基準時価」は、修正基準日(同日を含む。)までの直近の30連続取引日(以下、本 において「修正基準時価算定期間」という。)の大阪証券取引所JASDAQ市場における当会社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値(終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)とする。なお、修正基準時価算定期間中に下記 に規定する事由が生じた場合、上記の終値の平均値は下記 に準じて当会社が適当と判断する値に調整される。

取得価額の調整

(a) 以下に掲げる事由が発生した場合には、それぞれ以下のとおり取得価額(下限取得価額を含む、以下同じ。)を調整する。

普通株式につき株式の分割又は株式無償割当てをする場合、次の算式により取得価額を調整する。なお、株式無償割当ての場合には、次の算式における「分割前発行済普通株式数」は「無償割当て前発行済普通株式数(但し、その時点で当会社が保有する普通株式を除く。）」、「分割後発行済普通株式数」は「無償割当て後発行済普通株式数(但し、その時点で当会社が保有する普通株式を除く。）」とそれぞれ読み替える。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{分割前発行済普通株式数}}{\text{分割後発行済普通株式数}}$$

調整後取得価額は、株式の分割に係る基準日又は株式無償割当ての効力が生ずる日(株式無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日)の翌日以降これを適用する。

普通株式につき株式の併合をする場合、株式の併合の効力が生ずる日をもって次の算式により、取得価額を調整する。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{併合前発行済普通株式数}}{\text{併合後発行済普通株式数}}$$

下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る払込金額をもって普通株式を発行又は当社が保有する普通株式を処分する場合（株式無償割当ての場合、株式若しくは新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。以下本 において同じ。）の取得と引換えに普通株式が交付される場合、普通株式を目的とする新株予約権の行使による場合又は合併、株式交換若しくは会社分割により普通株式を交付する場合を除く。）、次の算式（以下「取得価額調整式」という。）により取得価額を調整する。調整後取得価額は、払込期日（払込期間を定めた場合には当該払込期間の最終日、以下同じ。）の翌日以降、また株主への割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日（以下「株主割当日」という。）の翌日以降これを適用する。なお、当社が保有する普通株式を処分する場合には、次の算式における「新たに発行する普通株式の数」は「処分する当社が保有する普通株式の数」、「当社が保有する普通株式の数」は「処分前において当社が保有する普通株式の数」とそれぞれ読み替える。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\left(\begin{array}{l} \text{（発行済普通株式の数 - 当社が} \\ \text{保有する普通株式の数）} \end{array} \right) + \frac{\begin{array}{l} \text{新たに発行する} \\ \text{普通株式の数} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{1株当たり払込金額} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{普通株式1株当たりの時価} \end{array}}}{\begin{array}{l} \text{（発行済普通株式の数 - 当社が保有する普通株式の数）} \\ \text{+ 新たに発行する普通株式の数} \end{array}}$$

当社に取得させることにより又は当社に取得されることにより、下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る普通株式1株当たりの取得価額をもって普通株式の交付を受けることができる株式を発行又は処分する場合（株式無償割当ての場合を含む。）、かかる株式の払込期日に、株式無償割当ての場合にはその効力が生ずる日（株式無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日、以下本 において同じ。）に、また株主割当日がある場合はその日に、発行又は処分される株式の全てが当初の条件で取得され普通株式が交付されたものとみなし、取得価額調整式において「1株当たり払込金額」としてかかる価額を使用して計算される額を、調整後取得価額とする。調整後取得価額は、払込期日の翌日以降、株式無償割当ての場合にはその効力が生ずる日の翌日以降、また株主割当日がある場合にはその日の翌日以降、これを適用する。

行使することにより又は当社に取得されることにより、普通株式1株当たりの新株予約権の払込価額と新株予約権の行使に際して出資される財産の合計額が下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る価額をもって普通株式の交付を受けることができる新株予約権を発行する場合（新株予約権無償割当ての場合を含む。）、かかる新株予約権の割当日に、新株予約権無償割当ての場合にはその効力が生ずる日（新株予約権無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日、以下本 において同じ。）に、また株主割当日がある場合はその日に、発行される新株予約権全てが当初の条件で行使され又は取得されて普通株式が交付されたものとみなし、取得価額調整式において「1株当たり払込金額」として普通株式1株当たりの新株予約権の払込価額と新株予約権の行使に際して出資される財産の普通株式1株当たりの価額の合計額を使用して計算される額を、調整後取得価額とする。調整後取得価額は、かかる新株予約権の割当日の翌日以降、新株予約権無償割当ての場合にはその効力が生ずる日の翌日以降、また株主割当日がある場合にはその翌日以降、これを適用する。但し、本 による取得価額の調整は、当社又は当社の子会社の取締役、監査役又は従業員に対してストック・オプション目的で発行される普通株式を目的とする新株予約権には適用されないものとする。

- (b) 上記(a)に掲げた事由によるほか、下記 乃至 のいずれかに該当する場合には、当社はA種優先株主及びA種優先登録株式質権者に対して、取得価額の調整を行う旨並びにその事由、調整後取得価額適用の日及びその他必要な事項を書面によりあらかじめ通知した上、取締役会が上記(a)に準じた調整として合理的と判断する方法により、必要な取得価額の調整を行うものとする。

合併、株式交換、株式交換による他の株式会社の発行済株式の全部の取得、株式移転、吸収分割、吸収分割による他の会社とその事業に関して有する権利義務の全部若しくは一部の承継又は新設分割のために取得価額の調整を必要とするとき。

取得価額を調整すべき事由が2つ以上相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の取得価額の算出に当たり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

その他、発行済普通株式数（但し、当社が保有する普通株式の数を除く。）の変更又は変更の可能性を生ずる事由等により、当社が取得価額の調整を必要と認めるとき。

- (c) 取得価額の調整に際して計算が必要な場合は、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。

- (d) 取得価額調整式に使用する普通株式1株当たりの時価は、調整後取得価額を適用する日に先立つ45取引日目に始まる30連続取引日の大阪証券取引所JASDAQ市場における当会社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値(終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)とする。
- (e) 取得価額の調整に際し計算を行った結果、調整後取得価額と調整前取得価額との差額が1円未満にとどまるときは、取得価額の調整はこれを行わない。但し、本(e)により不要とされた調整は繰り越されて、その後の調整の計算において斟酌される。

取得請求受付場所

株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

取得請求をしようとするA種優先株主は、当会社の定める取得請求書に、当該取得請求に係るA種優先株式を表示し、その他必要事項を記載した上、取得請求期間中に上記に記載する取得請求受付場所に提出しなければならない。

取得の効力は、取得請求書が上記に記載する取得請求受付場所に到着した日の25日後(以下「取得日」という。)に発生し、当社は、A種優先株式を取得し、当該取得請求をしたA種優先株主は、当社がその取得と引換えに交付すべき普通株式の株主となる。但し、取得日(同日を含まない。)までに下記(7)に定める買戻日が到来した場合には、上記に定める取得請求書記載の取得請求に係るA種優先株式のうち、下記(7)に定める現金取得通知記載の取得するA種優先株式については、本項に定める取得請求権に基づく取得の効力は発生しない。

当社は、上記に記載する取得の効力発生後、当該取得請求をしたA種優先株主に対して、当該A種優先株主が指定する株式会社証券保管振替機構又は口座管理機関における振替口座簿の保有欄に振替株式の増加の記録を行うことにより普通株式を交付する。

(5) 金銭を対価とする取得請求権

A種優先株主は、当会社普通株式が日本のいずれかの金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所をいう。)において上場廃止が決定されたとき又は平成28年7月29日以降平成29年7月28日(同日を含む。)までの間、いつでも、法令及び分配可能額の範囲内において、当会社に対し、金銭の交付と引換えに、その有するA種優先株式の全部又は一部を取得することを請求することができるものとし、当社は、当該請求に係るA種優先株式1株を取得するのと引換えに、196,000円の金銭を当該A種優先株主に対して交付する。但し、分配可能額を超えてA種優先株主から本項に基づくA種優先株式の取得請求がなされた場合には、当社は、分配可能額の範囲内において、取得請求されたA種優先株式の数に応じた比例按分その他当会社の取締役会が決定する方法により、当該取得請求に係るA種優先株式の一部を取得する。なお、かかる方法に従い取得されなかったA種優先株式については、取得請求がなされなかったものとみなす。

(6) 普通株式を対価とする取得条項(強制転換条項)

当社は、取得請求期間中に取得請求のなかったA種優先株式の全部を、取得請求期間の末日の翌日(以下「強制取得日」という。)をもって普通株式の交付と引換えに取得するものとし、かかるA種優先株式を取得するのと引換えに、A種優先株主に対して、その有するA種優先株式の数に196,000円を乗じて得られる額を、下記に定める強制取得価額で除して得られる数の普通株式を交付するものとする。なお、A種優先株式の取得と引換えに交付する普通株式の数に1株に満たない端数があるときは、会社法第234条に従ってこれを取扱う。

上記に定める強制転換の場合における取得価額は、強制取得日に先立つ5連続取引日(以下「強制取得価額算定期間」という。)の大阪証券取引所JASDAQ市場における当会社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値(終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)とする(以下「強制取得価額」という。)。なお、強制取得価額算定期間中に上記(4)に規定する事由が生じた場合、上記の終値の平均値は上記(4)に準じて当社が適当と判断する値に調整される。

当社は、取得の効力発生後、A種優先株主に対して、当該A種優先株主が指定する株式会社証券保管振替機構又は口座管理機関における振替口座簿の保有欄に振替株式の増加の記録を行うことにより普通株式を交付する。

(7) 金銭を対価とする取得条項（現金取得条項）

当社は、上記（4）に定める普通株式を対価とする取得請求をしようとするA種優先株主が上記（4）に定める必要事項を記載した取得請求書を上記（4）に定める取得請求受付場所に提出した場合に限り、当社の取締役会が別途定める日（以下「買戻日」という。）の少なくとも15日前までに、A種優先株主及びA種優先登録株式質権者に対して、当該取得請求の対象となっているA種優先株式の全部又は一部を取得する旨並びに買戻日、取得するA種優先株式の数及びその他必要な事項を書面により通知（以下「現金取得通知」という。）及び公告することにより、買戻日の到来をもって、法令及び分配可能額の範囲内において、当該取得請求の対象となっているA種優先株式の全部又は一部（但し、発行済みのA種優先株式の総数の60%に相当する数（累計）を上限とする。）を取得することができるものとする。当社は、A種優先株式を取得するのと引換えに、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対して、下記に定める買戻し基準時価に上記（4）に定める転換時交付株式数を乗じ、さらに上記（4）に定める転換時交付金額を加算した金額に相当する金銭を交付するものとする。買戻し基準時価とは、現金取得通知の日に先立つ30連続取引日（以下「買戻し基準時価算定期間」という。）の大阪証券取引所JASDAQ市場における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値（終値のない日数を除く、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。）とする。但し、買戻し基準時価が取得価額の2.2倍を超える場合は取得価額の2.2倍相当額とする。なお、買戻し基準時価算定期間中に上記（4）に規定する事由が生じた場合、上記の終値の平均値は上記（4）に準じて当社が適当と判断する値に調整される。

(8) 金銭を対価とする取得条項（強制償還条項）

平成24年7月29日以降、当社は、ある90連続取引日の大阪証券取引所JASDAQ市場における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値（終値のない日数を除く、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。）が、A種優先株式の取得価額の2.2倍を超えた場合、いつでも、当社の取締役会が別に定める日（以下「強制償還日」という。）の少なくとも35日前に、A種優先株主及びA種優先登録株式質権者に対して、A種優先株式の全部又は一部を取得する旨並びに強制償還日、取得するA種優先株式及びその他必要な事項を書面により通知及び公告することにより、強制償還日の到来をもって、法令及び分配可能額の範囲内において、A種優先株式の全部又は一部を取得することができるものとし、当社は、A種優先株式を取得するのと引換えに、A種優先株式1株につき、196,000円の金銭をA種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対して交付するものとする。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（千円）	資本金残高（千円）	資本準備金増減額（千円）	資本準備金残高（千円）
平成23年11月1日～平成24年1月31日	-	25,763	-	461,250	-	576,550

(6)【大株主の状況】

平成24年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
米田 賢治	京都市上京区	6,670	25.9
プレゼント・バレー (常任代理人 株式会社三菱 東京UFJ銀行)	33 SIR JOHN ROGERSON'S QUAY, DOBLIN 2, IRELAND (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事 業部)	3,152	12.2
ヒルクレスト・エルピー (常任代理人 株式会社三菱 東京UFJ銀行)	C/O WALKERS SPV LTD. WALKER HOUSE, 87 MARY STREET, GEORGE TOWN GRAND CAYMAN KY1-9002, CAYMAN ISLANDS (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事 業部)	1,895	7.4
三菱化学株式会社	東京都港区芝4丁目14-1	1,276	5.0
株式会社サン・クロレラ	京都市下京区烏丸通五条下る大坂町369番地	580	2.3
サン・クロレラ販売株式会社	京都市下京区烏丸通五条下る大坂町369番地	580	2.3
クリアスカイ・エルピー (常任代理人 株式会社三菱東 京UFJ銀行)	C/O WALKERS SPV LTD. WALKER HOUSE, 87 MARY STREET, GEORGE TOWN GRAND CAYMAN KY1-9002, CAYMAN ISLANDS (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事 業部)	447	1.7
シーシーエス従業員持株会	京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番 地	282	1.1
大賀 昭司	岡山県倉敷市	187	0.7
安井 由美子	京都市上京区	180	0.7
計	-	15,249	59.2

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位10名は、以下のとおりであります。

平成24年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権に 対する所有議決権 数の割合(%)
米田 賢治	京都市上京区	6,670	32.3
三菱化学株式会社	東京都港区芝4丁目14-1	1,276	6.2
株式会社サン・クロレラ	京都市下京区烏丸通五条下る大坂町369番地	580	2.8
サン・クロレラ販売株式会社	京都市下京区烏丸通五条下る大坂町369番地	580	2.8
プレゼント・バレー (常任代理人 株式会社三菱 東京UFJ銀行)	33 SIR JOHN ROGERSON'S QUAY, DOBLIN 2, IRELAND (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事 業部)	286	1.4
シーシーエス従業員持株会	京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番 地	282	1.4
大賀 昭司	岡山県倉敷市	187	0.9
安井 由美子	京都市上京区	180	0.9
ヒルクレスト・エルピー (常任代理人 株式会社三菱 東京UFJ銀行)	C/O WALKERS SPV LTD. WALKER HOUSE, 87 MARY STREET, GEORGE TOWN GRAND CAYMAN KY1-9002, CAYMAN ISLANDS (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事 業部)	172	0.8
原田 熊太	新潟県糸魚川市	163	0.8
計	-	10,376	50.2

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 5,103	-	「(1)株式の総数等」に記載しております。
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,660	20,660	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	25,763	-	-
総株主の議決権	-	20,660	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年11月1日から平成24年1月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年8月1日から平成24年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、京都監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,763,125	1,210,400
受取手形及び売掛金	1,324,695	1,183,798
商品及び製品	361,768	439,339
仕掛品	155,697	136,241
原材料及び貯蔵品	508,506	521,326
繰延税金資産	88,078	88,097
その他	81,182	58,392
貸倒引当金	1,374	1,529
流動資産合計	4,281,679	3,636,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,214,484	1,212,331
減価償却累計額	371,896	391,511
建物及び構築物(純額)	842,587	820,820
機械装置及び運搬具	259,217	259,984
減価償却累計額	254,449	254,787
機械装置及び運搬具(純額)	4,768	5,197
工具、器具及び備品	653,600	689,018
減価償却累計額	559,011	585,883
工具、器具及び備品(純額)	94,588	103,135
土地	763,028	763,028
リース資産	13,109	13,109
減価償却累計額	13,109	13,109
リース資産(純額)	-	-
建設仮勘定	-	6,518
有形固定資産合計	1,704,972	1,698,699
無形固定資産	65,714	62,537
投資その他の資産	127,188	123,705
固定資産合計	1,897,875	1,884,942
資産合計	6,179,555	5,521,010

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	199,236	170,776
短期借入金	1,685,855	580,855
1年内返済予定の長期借入金	630,515	712,518
リース債務	7,543	7,506
未払金	285,435	219,588
未払法人税等	36,169	27,511
賞与引当金	69,133	71,287
その他	42,371	44,098
流動負債合計	2,956,261	1,834,144
固定負債		
長期借入金	1,001,731	1,659,305
リース債務	17,074	13,320
繰延税金負債	23,972	19,864
退職給付引当金	41,948	43,917
資産除去債務	25,927	26,076
その他	15,371	9,007
固定負債合計	1,126,025	1,771,491
負債合計	4,082,286	3,605,636
純資産の部		
株主資本		
資本金	461,250	461,250
資本剰余金	1,513,749	1,513,749
利益剰余金	249,469	104,044
株主資本合計	2,224,469	2,079,044
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	127,201	163,670
その他の包括利益累計額合計	127,201	163,670
純資産合計	2,097,268	1,915,374
負債純資産合計	6,179,555	5,521,010

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
売上高	2,608,197	2,500,691
売上原価	1,040,062	1,065,821
売上総利益	1,568,135	1,434,869
販売費及び一般管理費	1,450,794	1,486,048
営業利益又は営業損失()	117,340	51,178
営業外収益		
受取利息	714	589
助成金収入	6,030	8,412
副産物収入	28,871	-
為替差益	-	2,345
その他	4,419	5,819
営業外収益合計	40,035	17,165
営業外費用		
支払利息	43,197	39,153
為替差損	5,470	-
売上割引	4,528	5,226
その他	2,284	206
営業外費用合計	55,481	44,587
経常利益又は経常損失()	101,895	78,599
特別利益		
特許関連収入	30,000	-
特別利益合計	30,000	-
特別損失		
固定資産除却損	2,176	209
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12,495	-
特別損失合計	14,672	209
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	117,222	78,809
法人税、住民税及び事業税	28,765	26,062
法人税等調整額	39,139	766
法人税等合計	67,904	25,295
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	49,318	104,105
四半期純利益又は四半期純損失()	49,318	104,105

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	49,318	104,105
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	7,261	36,469
その他の包括利益合計	7,261	36,469
四半期包括利益	42,056	140,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,056	140,574
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	117,222	78,809
減価償却費	78,613	67,149
退職給付引当金の増減額(は減少)	4,945	1,968
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12,495	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,656	174
賞与引当金の増減額(は減少)	2,139	2,239
受取利息及び受取配当金	714	589
支払利息	43,197	39,153
有形固定資産除却損	2,176	209
売上債権の増減額(は増加)	296,977	138,422
たな卸資産の増減額(は増加)	190,778	75,295
仕入債務の増減額(は減少)	20,031	28,090
未払金の増減額(は減少)	88,054	61,864
その他	11,699	13,494
小計	239,553	18,162
利息及び配当金の受取額	707	582
利息の支払額	40,723	42,380
法人税等の支払額	10,362	27,464
営業活動によるキャッシュ・フロー	189,174	51,099
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	20,075	48,573
無形固定資産の取得による支出	1,075	14,179
その他	7,108	990
投資活動によるキャッシュ・フロー	28,258	63,743
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	195,000	1,105,000
長期借入れによる収入	-	1,100,000
長期借入金の返済による支出	382,672	360,421
自己株式の処分による収入	96,019	-
配当金の支払額	39,124	40,627
割賦債務の返済による支出	4,687	5,002
ファイナンス・リース債務の返済による支出	3,622	3,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	139,087	414,622
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,335	23,260
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	16,492	552,726
現金及び現金同等物の期首残高	714,168	1,722,051
現金及び現金同等物の四半期末残高	730,661	1,169,324

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 92,519千円 給料手当 397,675 退職給付費用 14,871 賞与引当金繰入額 40,021 支払手数料 142,690 研究開発費 310,865	役員報酬 106,363千円 給料手当 371,604 退職給付費用 20,809 賞与引当金繰入額 43,157 研究開発費 315,067

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年1月31日現在) (千円)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年1月31日現在) (千円)
現金及び預金勘定 770,518 預金期間が3ヶ月を超える定期預金及び定期積立預金 39,857 現金及び現金同等物 730,661	現金及び預金勘定 1,210,400 預金期間が3ヶ月を超える定期預金及び定期積立預金 41,076 現金及び現金同等物 1,169,324

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年8月1日至平成23年1月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月29日 取締役会	普通株式	40,044	2,000	平成22年7月31日	平成22年10月14日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成22年7月26日開催の取締役会において、三菱化学株式会社を割当先とする第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議し、平成22年8月11日に払込手続が完了しております。

この結果、第1四半期連結会計期間において、利益剰余金が62,988千円減少、自己株式が159,007千円減少しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末において、自己株式はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年8月1日至平成24年1月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月29日 取締役会	普通株式	41,320	2,000	平成23年7月31日	平成23年10月13日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	LED照明事業	植物育成プラ ント事業	野菜事業	レストラン・ カフェ事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,487,552	33,112	78,151	9,381	2,608,197	-	2,608,197
セグメント間の内部売上 高又は振替高	955	-	-	-	955	955	-
計	2,488,507	33,112	78,151	9,381	2,609,152	955	2,608,197
セグメント利益又は損失 ()	297,302	104,819	48,876	9,873	133,732	16,392	117,340

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 16,392千円には、セグメント間取引消去4,965千円、各セグメントに配分していない全社費用 21,357千円が含まれております。全社費用は、株式会社フェアリープラントテクノロジーの第1四半期連結会計期間までの管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来、「LED照明事業」、「植物育成プラント事業」、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間末に、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」から撤退しております。

これにより、当第2四半期連結会計期間より、「LED照明事業」及び「植物育成プラント事業」の2つを報告セグメントとしております。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益計 算書計上額 (注2)
	LED照明事業	植物育成プラ ント事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,465,372	35,318	2,500,691	-	2,500,691
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,324	2,476	3,800	3,800	-
計	2,466,697	37,795	2,504,492	3,800	2,500,691
セグメント利益又は損失 ()	43,946	95,908	51,962	784	51,178

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額784千円には、セグメント間取引消去784千円が含まれておりま
す。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来、「LED照明事業」、「植物育成プラント事業」、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、前第1四半期連結会計期間末に、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」から撤退しました。

これにより、当第2四半期連結累計期間は、「LED照明事業」及び「植物育成プラント事業」の2つを報告セグメントとしております。

(金融商品関係)
 前連結会計年度末(平成23年7月31日)

科目	連結貸借対照 表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)短期借入金	1,685,855	1,685,855	-
(2)長期借入金	1,632,246	1,618,727	13,518

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1)短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映していると考えられるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当第2四半期連結会計期間末(平成24年1月31日)

短期借入金及び長期借入金が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

科目	四半期連結貸借対照 表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)短期借入金	580,855	580,855	-
(2)長期借入金	2,371,824	2,365,294	6,529

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1)短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映していると考えられるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成23年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	2,391円15銭	4,040円88銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	49,318	104,105
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	49,318	104,105
普通株式の期中平均株式数(株)	20,625.33	25,763.00
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	2,389円1銭	-円-銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	18.43	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第2四半期連結会計期間
(自平成23年11月1日
至平成24年1月31日)

(社債の発行)

当社は、平成24年3月13日開催の取締役会において、次のとおり銀行保証付私募債を発行することを決議しました。

1. 銘柄：第1回無担保社債(株式会社三井住友銀行保証付及び適格機関投資家限定)
2. 発行総額：300百万円
3. 発行価額：額面100円につき金100円
4. 払込日(発行日)：平成24年3月26日(予定)
5. 償還方法：半年毎49.5百万円、最終52.5百万円
6. 償還期間：3年
7. 利払方法：半年毎後払い
8. 担保の内容：本社債には物上担保は付されておらず、また特に留保されている資産はありません。
9. 資金使途：設備資金
10. 保証人：株式会社三井住友銀行
11. 社債事務取扱者：株式会社三井住友銀行
12. 総額引受人：株式会社三井住友銀行
13. 振替機関：株式会社証券保管振替機構

なお、前各項に定めたほか本社債に関し、必要な事項および発行条件その他に関し変更を要する事項がある場合は、代表執行役社長に一任する。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年3月15日

シーシーエス株式会社
取締役会 御中

京都監査法人

指定社員 公認会計士 松永 幸廣 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 中村 源 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシーシーエス株式会社の平成23年8月1日から平成24年7月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年11月1日から平成24年1月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年8月1日から平成24年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シーシーエス株式会社及び連結子会社の平成24年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成24年3月13日開催の取締役会において、銀行保証付私募債を発行することを決議した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。